

※ 本記事はブログ記事として提供しています。その範疇のものとして捉えて下さい。

自発的に渡す段階が先で PECS フェイズ①(選ぶのはフェイズ③)

「クラスで一番発達が緩やかな児童にコミュニケーションを教えてあげたい！」と特別支援学校の先生なら誰しもが思いますよね。まずは「トイレスイン」と「トントン、サイン」を入れて、その次は絵カードを選択することを教えていこうかな…なんて。でも、実際はなかなか難しくて、「どれを食べたい？」と、子どもが幾つかのカードから選んでも「本当にコレでいいの…??？」と聞き返したくなるような選び方や選んだ結果だったり、いつまで経ってもクレーンが取れずに「絵カードも教えているのにな…」と学習成果が日常生活の中に般化・馴化しなかったりします。

「何で上手くいかないのかな…」と僕も紐解いてみたのが図1の PECS の本です。PECS、PECS とは聞くけれど、あんまりよく知らないんだ、実は…という人、必見。これから何回かは PECS 特集です。

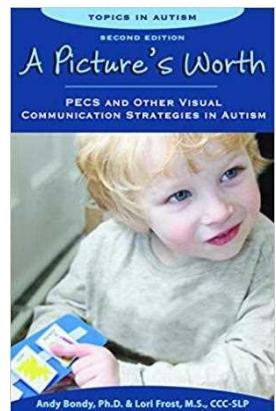
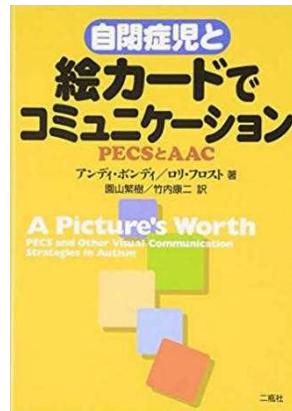


図1：PECS の入門書

PECS フェイズ①

- 絵カードを導入する事前の発達段階って???? -

○何らかの方法で自分の好きな物を明確に指示する行動ができること。
 ○何らかの方法で自分の嫌いな物を遠ざけるような行動ができること。
 ○PECS の最初のステップでは…(中略)…前提となるスキルとして、…(中略)…子どもが摸倣できるようになったり、「何が欲しいの?」「これは何?」等の質問に答えられるようになってから、自発的なコミュニケーションに取り組むのが一般的である。

→ どういうことかというと、3項関係注視（モノー自分一大人）を経て、命名課題（モノには名前があるという理解）を通過していることが望ましいということ。摸倣は自閉スペクトラム症の児童は苦手な場合も多いので、「先生の働きかけを見て、何かアクションを返せるか？」程度の理解だと思われます。

- 「1番最初のカード」になり得る強化子の選定のコツ -

○以下の方法で強化子のアセスメントをすること。（※強化子をちゃんとアセスメントするのは重要）

- ①すぐに消費されるような（すぐに溶けてなくなるとか、時間で終わるとか）強化子か、コレクションしたくなるような強化子をリストアップし、優先順位を付けること。
- ②強化子を得るのにその子がどれだけの努力をするのかを記録し、順位を付けること。

○強化子が決まったら一定期間、それを与えないこと。（←家庭との連携が必要ですよね。）

- ファーストステップは「差し出すこと」。「選ぶ」はフェーズ3でかなり先の課題だった！？ -

✗ 禁忌事項：教員1人 対 子ども1人でトレーニングを行うと「どれにするの?」「カードちょうどいい」といった「教員の出すプロンプト（手がかり）待ち」の形でカード交換のスキルが固まってしまう。

○正しい方法：教員2人 対 子ども1人の体制で初期トレーニングを行い（目安：フェーズ2で「歩いて離れた先生に持って行けるようになるまで」です）一人の先生は交換物（強化子）を提示する役、もう一人は子どもの後ろから肘をつつく等してカードを取るプロンプトを出す役を行う。朝の学習の時間とかならできそうですよね。自活の個別とかだと逆に1人に2人はつけないから不適だと思います。

『本号では、PECS フェーズ①について紹介をしました。フェーズ①は絵カードを使って、「自分から要求することを教える（自発的にカードを渡すことを教える）段階」でした。『絵カードの導入』のファーストステップといったらカードが見分けられて、「どれ？」って言われたときに選べること…みたいに捉えていることが多いですが、それはフェーズ③でかなり先の課題になります。自分から差し出せること、差し出すために自分から大人に近づいていくこと（フェーズ②）が最初の一歩。僕自身、なんで今まで絵カードの導入が上手くいかなかったのかのヒントを得た、そんなフェーズ①でした。